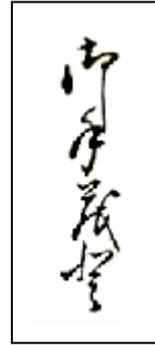
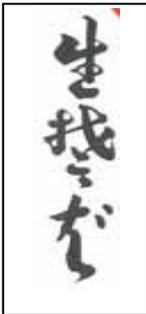


## 古文書(くずし字)を読めるようになるには



「古文書(こもんじょ)」とは、以前に書かれた古い文書をいいますが、一般的には江戸時代とか戦国時代とかの文書をイメージされる方が多いと思います。古文書に書かれている字は一般的には草書と呼ばれる書体で、「くずし字」という言い方もします。

江戸時代は主として草書(くずし字)で字を書きました。現在では、くずし字は、例えば割り箸の袋に書いてある「御てもと(御手茂登)」や、蕎麦屋の看板にある「生そば(生楚者)」など、たまに見かける程度です。また、意外と知られていませんが、将棋の「と金」の「と」は「金」という字を崩したもので、本当は「金」と書いてあるのですが、「と」のように見えるので「と金」と呼んでいます。



さて、古文書を読む目的は、研究者にとっては論文を書くときの論拠となる資料を探すためですが、一般の方の中には古文書を読むこと自体を目的とされている方もいるかもしれません。古文書は、様々な知識や想像力を働かせながら読まなければならないため、脳のトレーニングにもなります。パソコンの普及で活字以外の字を見たり書いたりすることは極端に少なくなりました。

このような時代に趣味として古文書を読んでみることは、非日常的な世界に浸るという意味でも意義深いことかもしれません。

古文書を読めるようになるためのステップとして、

基本的な崩し方のパターンを覚える。

半ば記号化されている、大きく崩してある字を覚える

(本来は草書なので崩し方のルールに則って崩してあるのですが、“そういうもの”と考えて覚えてしまった方がよい字が多くあります)。

熟語にあたるような基本的な言い回しを覚える。

願書、明細帳など古文書の種類の基本的な書き方を覚える。

などが思い当たります(「くずし字辞典」のような辞典が一冊あると便利です)。

「くずし字」解読のためのテキストは多くありますが、“初めの一歩”の部分が少なく、すぐに高度な内容になってしまいます。また、くずし字と活字を対照することはあっても、なぜそのくずし字がその活字なのか、を説明してくれる本は多くありません。

当静岡県立中央図書館歴史文化情報センターでは、『静岡県史』編さんの過程で収集された古文書の写真を多く保管しています。当歴史文化情報センターの職員はその古文書の写真を読んで、表題や内容などをパソコンのデータベースに入力するという作業を行なっています(一部はインターネットでも検索できます)。ただ、職員は古文書解読の専門家ではなく、赴任当初の読解能力は高くありません。しかし、だからこそ、これから古文書を読み始めようとする方々が、“どこでつまづきやすいのか”を、自分の経験からよくわかっているともしえます。その経験を生かして、古文書を読むための“初めの一歩”となる考え方やテクニックを書いていきたいと思っています。